

地震への対策

家や家の周りの防災対策

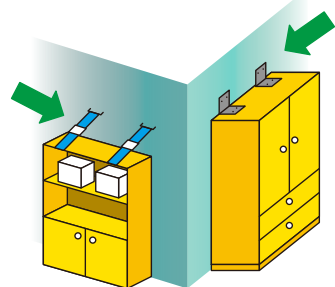
建物の耐震化

昭和56年5月より以前に建てられた建物は、現行の耐震基準を満たしていない可能性があります。家屋の耐震診断や耐震改修をお考えの方は都市計画課までご相談下さい。

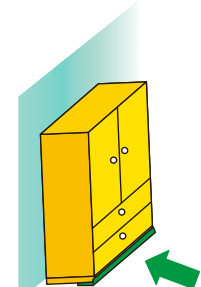


ブロック塀の倒壊を防止
ブロック塀に控え壁があるか、鉄筋が入っているかの確認をしておきましょう。一部でも安全性が損なわれていたら、全体の倒壊を引き起こす可能性があります。

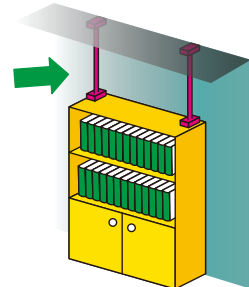
家の中の防災対策



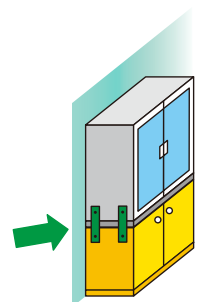
L型金具やベルト式器具などで、家具と壁を固定する。



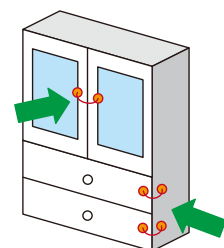
ストッパー式器具で家具を壁側に傾斜させる。



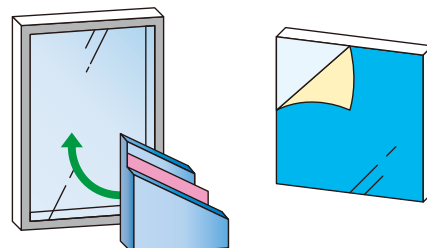
家具と天井の間を、つっぱり棒などで固定する。



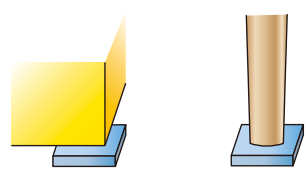
上下が分かれている家具は、平型金具などで連結する。



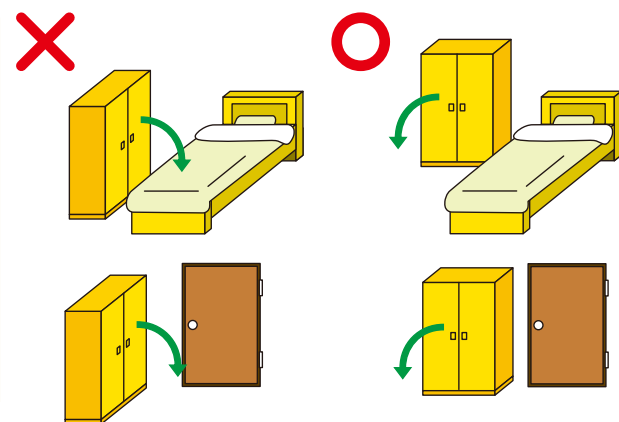
扉が開かないように、飛び出し防止器具をつける。



窓ガラス・ガラス扉などは、飛散防止対策済みのガラスに交換するか飛散防止フィルムを貼る。



金具で固定できないようなものに対しては、粘着性マットなどで固定する。



寝る位置に家具が倒れてこないようにする。扉などがふさがれて避難の妨げにならないようにする。

非常持ち出し品・備蓄品について

災害後の救助や救援物資が到着するまで数日かかる場合もあります。必要最低限のものは準備しておきましょう。非常持ち出し品は、リュックサックなどにまとめて、いつでも持ち出せる場所に保管しておきましょう。自分や家族の状況に応じて、必要なものを優先順位をつけて揃えるようにしましょう。備蓄品は、被害を受けにくく、非常時でも取り出しやすい場所に保管しておきましょう。

食料など	
飲料水 (1人1日3リットル)	
非常食(乾パンなど)	
携帯食(アメ、チョコなど)	

貴重品	
現金(小銭を含む)	
車や家の鍵	
眼鏡・コンタクトレンズ	
通帳や生命保険契約書	
クレジットカード	
健康保険証	
身分証明書	
印鑑	
母子健康手帳	

清潔・健康用品	
救急セット	
常備薬・持病薬	
タオル	
トイレトペーパー	
ウェットティッシュ	
マスク	
洗面用具	

便利品など	
防災ずきん・ヘルメット	
懐中電灯(予備電池)	
カセットコンロ	
ガスボンベ	
なべ	
キッチン用ラップ	
ポリ袋・ビニール袋	
給水袋	
笛やブザー	
万能ナイフ	
スリッパ	
軍手か革手袋	
マッチかライター	
雨具	
ブルーシート・レジャーシート	
新聞紙	
ガムテープ	
ロープ	
毛布・寝袋	
使い捨てカイロ	
アルミ製保温シート	
簡易トイレ	

衣類	
衣類(夏・冬)	
下着類	

情報収集用品	
携帯電話・充電器	
携帯ラジオ(予備電池)	
家族の写真(はぐれた時の確認用)	
家族・親戚・知人の連絡先	
広域避難地図	
筆記用具	

その他	
紙おむつ	
生理用品	
粉ミルク・哺乳瓶	
その他自分の生活に欠かせないもの	

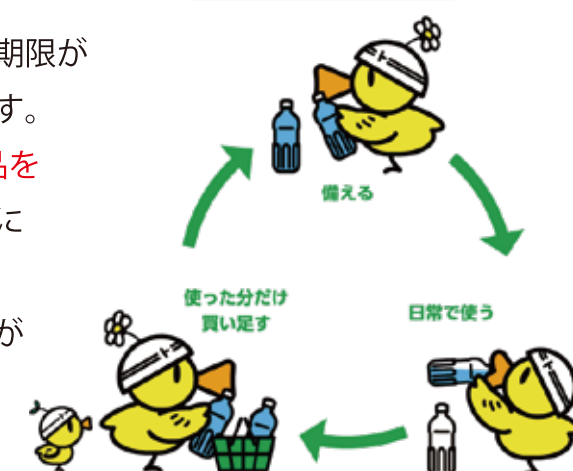


備蓄の心得

水や保存食料、電池やガスボンベなど、備蓄品は保存期限が長いものが多いです。しかし、長いだけで期限はあります。「いざという時に使用できない」を避けるために、**備蓄品を日常的に使用して、その分を新しく買って補充する**ようにしましょう。

備蓄品を日常生活で消費することによって、数の管理ができ、鮮度を保ち、保存食に慣れておけば、いざという時にも日常に近い食生活を送ることができるはずです。

ローリングストックの図



<出典：日本気象協会推進 トクする！防災>